

表紙

もくじ

リンゼイに行ってきました

秋の叙勲受章おめでとうございます  
E N - R A Yホールイベント

市税は納期内に

民生委員児童委員と主任児童委員  
の紹介

パブリック・コメント

スキー大会の紹介

ピヤシリススキー場シーズン券販売中

フォトでお知らせ - 広報版 -

名寄市立大学の窓から

～知への誘い～

サークル紹介

健康ガイド

もっと！もち米プロジェクト

男女共同参画社会の実現をめざして  
天塩川だより

森のたんけん隊2017冬

今月の手話

消費生活センター通信

建設工事等および庁用物品・委託  
業務等の資格審査

施設のお知らせ

暮らしのお知らせ

裏表紙



姉妹都市

# リンゼイに行ってきました



交換留学を  
行いました

名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会(稲場英紀委員長)では、毎年姉妹都市のカナダ・カワーサレイクス市リンゼイと高校生による相互交流を行っています。

今年7月26日から9月24日までの約2カ月間、市内の高校に通う2人の高校生が、交換学生としてリンゼイに滞在しました。滞在中は1週間単位でホームステイし、リンゼイの高校に通学するなど現地の人々との交流を深めました。

参加した2人の感想を、滞在時の写真とともに紹介します。

◆交換留学についての問い合わせ

交流推進課(風連庁舎1階)

☎01655③2111

(内線361)



## 交換留学を通して



名寄高校2年  
種本 彩乃

私は、この交換留学を通して、さまざまなことを学び、多くのカナダと日本の違いを発見した。

一番印象に残ったのは、学校のことだ。カナダの高校では、1日が4つの授業で構成されており、1限が75分もある。そして、多くの生徒が進んで手を挙げて発表するのだ。私は、この光景に感銘を受けた。日本でも、小学生の頃から積極的に手を挙げようと教えられる。それが当たり前だと。しかし、多くの日本の学生は積極的に手を挙げる。指名されれば答える、それが当たり前になってしまった。だが、カナダの学生は違う。これは、見習わなければならぬ、と思われた。その他には、授業中の飲食や、無断退室など、見習ってはいけない点もあったが、日本とカナダの違いがはつきりと分かる

興味深い場所であった。

次に印象に残ったのは、食べ物に関することだ。私は、カナダに行く前、「フーティーン」といもち。同じいもちを使った料理だが、北海道の郷土料理であるいもちは、カナダの人々に受け入れられるのか」という疑問を持っていたので、いもちをホストファミリーに作り、実際に食べてもらった。大人たちはおいしーいと言って食べてくれたが、子どもが積極的に手をつけなかったところを見ると、カナダの人には、受け入れづらい物なのだろうと感じた。その他にも、食文化の違いはたくさんある。例えば、カナダでは、あまりタコを食べたことがある人がいない。調べてみたところ、タコは悪魔の魚と呼ばれていたらしく、今でも食べる習慣はあまりないそうだ。日本では、タコを食べると言う、「本当？」と少し驚かれた。

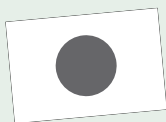
ウェルカムパーティでは、小さな茶席を設け、ホストファミリーの皆さまにお茶とお菓子を召し上がってもらった。みんな、日本語で「ありがとう」と笑顔で応えてくれた。日本の文化が受け入れられたようで、私はとてもうれしかった。

カナダの小学校に行ったとき、日本の文化についてパワーポイントを使って説明した。茶道についても、実

際に道具を触ってもらい、何に使う道具かを説明した。カナダの小学生は、日本文化に興味を持ち、「この道具は何でできているの?」とか、「ハローって日本語で何て言うの?」など、さまざまな質問をしてくれた。休み時間には、数人の生徒に折り紙を教えた。かっこいいー作りたーと積極的に取り組み、最後に笑顔で「ありがとう」と言って帰って行った。休み時間の折り紙教室は、毎日開き、満員御礼、大盛況だった。少し大変だったが、とても楽しかった。

日本に帰国し、私は、早速マツト先生と会話を試みた。以前より話を理解することができ、自分の意思も伝えることができた。カナダに行く前は、うまく伝えられるか不安で、自分から話しかけることも難しかった。彼は、私に「英語がうまくなったね」と言ってくれた。とてもうれしかった。自分の過ごした2カ月間が報われたような気がした。

この2カ月は、心身ともに充実した時間であり、私の大切な宝物となった。この経験を活かし、今後も英語や茶道に力を注いでいきたいと思う。







## 交換留学を通して 感じたこと



名寄高校2年  
山口 キララ

私が6歳のころ、名寄市の姉妹都市であるリンセイから交換留学生のジェシカをホストファミリーとして受け入れていました。彼女との思い出は、とても楽しかったことばかりです。あれから月日が経過し、自分が高校生になり、今度は私がリンセイへ行きジェシカに再会してみたいと思い、志望しました。

作文と面接試験の結果が郵便で届き、その通知を母と共に開封しました。私が交換留学生に選ばれて、母は涙を流していました。私は、その姿を見てどうして泣いているのかわかりませんでした。



たかく迎えられ、私は安心しました。緑色の芝生、そこにバスケットゴール、コーラを飲みながらスケートボードに乗る少年。庭にはプール、湖にはボート。まるで映画のような景色に、私は感動しました。

数日後、リンセイでウエルカムパーティーをしていただきました。その時に、私はジェシカに再会することができました。彼女は、すぐに私を抱きしめてくれました。そして10年前に名寄で一緒に撮った写真を眺めながら、近況を語り合いました。彼女は当時の夢を叶え、教師になり一児の母になっていました。私は、それを嬉しかったです。懐かしさと新鮮さの中、今回リンセイに来て良かったと思いました。

私は英語があまり得意ではなく、聞き取ることに苦労しました。そして私は、自分の気持ちを伝えようと一杯知っている英単語を並べ、会話をしていました。この2カ月間で、相手の表情を見て何を伝えようとして

いるのか感じ取る力がつきました。音楽は、言葉が通じなくても一緒に楽しめました。ロックもカントリーもクラシックも万国共通でした。ホームシックになったときに私を支えてくれたのは、音楽と名寄の友達からの手紙でした。

普段の私は、コミュニケーションのツールとしてスマートフォンを利用する事が多いです。わからない事があればネットで検索したり、SNSで気持ちを送信したりしています。しかし、カナダの方々は、スマートフォンをあまり使いません。なぜなら、会いたい人に直接会いに行き、顔を見て会話をします。また、わからないことがあれば、わかる人に質問をしに行く。その直接的「コミュニケーション」方法に私は、充足感を感じました。今後は、忙しくても、疲れていても、多くの方々との会話を大切に暮らしていきたいです。

カナダでは、ホストファミリーの方々にさまざまな観光地に連れて行っていたできました。その中でも虹のかるなエアガラの滝は、美しさやスケールの大きさに圧倒されました。水、空、風、光、私はその大自然を肌で感じる事ができ、生涯忘れないと思います。

カナダでの時間は、いつもゆったりとしていました。夕食後には、家



族で焚火を囲み、珈琲を飲みながらボードゲームをして過ごしていました。私は、その時間が好きで「将来は、カナダに住みたい」と思いました。

私は現在、高校2年生です。いつも目の前のことで精一杯です。今回の経験は、自分を見つめ直し、将来について考えることもできました。この貴重な経験をさせてくれたホストファミリーの皆さま、お世話になった交流推進課の皆さま、名寄・リンセイ姉妹都市友好委員会の皆さま、名寄で待っていてくれた友人、私のために、一緒にリンセイに行く準備をしてくれた両親。たくさんの方々に支えられて無事に2カ月間過ごすことができました。本当にありがとうございます。いつかこの大好きな名寄に恩返しをしたいです。